

日本発・超小型人工衛星のアフリカ諸国への貢献

実施日：令和2年1月28日～2月7日 於：エチオピア（アディスアベバ）、ザンビア（ルサカ）、アンゴラ（ルアンダ）

■ 派遣専門家



中村 友哉

株式会社アクセルスペース
代表取締役・最高経営責任者

東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻博士課程修了。在学中、3機の超小型衛星の開発に携わった。卒業後、同専攻での特任研究員を経て、2008年にアクセルスペースを設立、代表取締役に就任。2022年完成を目標に、自社事業として多数の超小型衛星で全世界を毎日観測する次世代の地球観測網「AxelGlobe」の構築を推進中。2015年より宇宙政策委員会宇宙産業・科学技術基盤部会委員。

■ 事業概要



エチオピアでの講演



ザンビアでの講演



アンゴラでの講演



■ 実施結果

超小型宇宙衛星を開発・運用する（株）アクセルスペースの代表・中村友哉さんがエチオピア、ザンビア、アンゴラを訪問し、日本が世界に先駆けて成功させた超小型宇宙衛星による宇宙利用の可能性をテーマに講演しました。超小型宇宙衛星の登場により、農林水産業や土地管理、都市計画、環境保全、災害モニタリング、地図作成など、様々な目的で活用できる衛星データが従来に比べて大幅に低コスト且つ高頻度で入手可能になり、その利用者も従来の限られた先進国政府に留まらず、途上国や民間にまで広がっています。講演会には、閣僚を含む政府関係者や経済・企業関係者、エンジニアらが参加。中村さんが学生時代に製作に携わった、空き缶サイズの衛星も展示して宇宙を身近に感じてもらいながら、日本発の超小型宇宙衛星技術が、インフラの構築をはじめ、国づくりや経済の発展に貢献できる可能性を示し、日本と共に宇宙利用を推進していく機運醸成となる事業となりました。